

BUSINESS REPORT

第106期 近況報告 2017.4.1 ▶ 2017.9.30



トップメッセージ

価値ある素材をもっと社会へ。
私たちにできる挑戦があります。

海外市場へ、非衣料分野へ。
未来につながる新しい価値を育てます。

あした求める価値を、きょうから準備する。
小松精練グループの使命です。

代表取締役社長 池田 哲夫



Q 中間期の業績は想定どおりでしたか。

池田 売上げはわずかですが、収益面は当初の計画を上回る大幅増益となりました。

売上げでは、自主企画で製造販売する海外向けを中心としたファッションおよびスポーツ関連のテキスタイル事業が好調に推移しました。3期連続で売上げを伸ばしてきた中東向け民族衣装は、当中間期は微減となりましたが、ほぼ計画どおりといえます。非衣料分野では、湿布基材など医療・福祉のメディカル分野と防水ベッドカバーなど介護を含む生活関連資材分野が拡大しました。

収益面の改善では、製品の数量増に加えて、数年前から手掛けている製造工程におけるロス削減など生産性向上の取り組みが順調に成果につながっています。モノづくりの最適化の追求に終着点はありません。これからも改善に意欲を燃やし、構造改革を継続して進めます。

Q 当期の重点方針として3つの課題を掲げています。その狙いと進捗はいかがですか。

池田 まず、「生産性の向上への取り組み」です。国内の労働人口の減少が取りざたされる中、モノづくりの基盤をもう一度国内に戻すという動きも見られます。高コストと見られがちな国内で、世界と競争できる製品をつくるには、省人化と生産性の向上は欠かせません。優れた製品をいかに無駄なく安定的につくれるか、業務のスピードアップと生産のローコスト化に向けた努力はまだまだ続きます。

2つめは「先端技術を活かした新たな価値の創造」です。当社の優位性を突き詰めると、“高次加工”に行きつきます。1 + 1 が2になるのは当たり前ですが、次元の異なる技術を絡めることで、1 + 1 を4や5の価値を持つ製品に変えていこうというわけです。これから伸ばそうとしている炭素繊維複合材「カボコーマ」でいえば、炭素繊維そのものは強くて軽いとされているものの、横からの力に弱さを持っています。当社では、その弱点を伝統ある“組みひも”の技術で補い、さらに特殊な樹脂を被覆して鋼製ワイヤよりも強靱な素材を実現しました。当社が勝ち残る条件は、そうした加工技術でだれも真似のできない高付加価値を生むことだと考えています。

3つめは「海外市場・非衣料分野の強化」です。前期末で海外の売上げ比率は約35%、非衣料分野の売上げ比率は約27%となっています。国内では人口減少が進んでいますが、人口増が続く途上国では豊かさが増すとともに、着飾ることに人々の消費意欲が高まっています。繊維は成長産業だと考えています。ただ、ファッションやスポーツ関連の消費は、冷夏や暖冬など予期せぬ気候変動の影響を受けます。安定した経営を目指すとなると、こうした予測不能な変動幅を可能な限り小さくしていかなければなりません。国内と海外、衣料と非衣料の売上げ比率を50対50に近づけたいと考え、全力で取り組んでいるところです。

Q 当期末も満足のゆく業績が期待できそうですか。

池田 現時点での業績予想は、売上高38,000百万円(前期比5.9%増)、営業利益1,600百万円(同10.7%増)、経常利益2,200百万円(同12.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益1,600百万円(同11.8%増)の見通しです。為替などの大きな変動がない限り、当中間期の勢いを維持できるものと考えています。

あえて改善すべき点をあげれば、前期末に黒字化を果たした中国・蘇州の子会社がこの中間期に再び赤字となりました。中国拠点の位置づけは、単なるモノづくりのコストセーブではなく、大きく膨らみ始めた中国市場の消費ニーズをどこまで取り込めるかにあります。また、今後は中国拠点から欧米諸国への輸出も期待しています。自助努力がまだまだ足りない、一層の奮起をうながしているところです。

Q 「先端ファブリックメーカー」を目指す小松精練ですが、あらためて社長の抱負をお聞かせください。

池田 当社の強みをあえて一言で表現すれば、「いま世の中にあるものを使って、世の中にないものに変えていくこと」だと思っています。

炭素繊維複合材「カボコーマ」や染色工程の廃水処理で生まれた汚泥を原料の一部に使用した発泡セラミックス「グリーンビズ」は、わが国が抱える耐震強化や環境整備など社会インフラの整備に大いに役立つ素材です。これらの製品こそ、小松精練が進むべき新たな道筋を指し示しています。

当社の事業計画では、炭素繊維を中心に先端材料で2025年までに50億円に伸ばしたいと目論んでいます。「カボコーマ」の採用事例を増やすなど、時間を掛けても大きくしっかり育てていきたいと考えています。

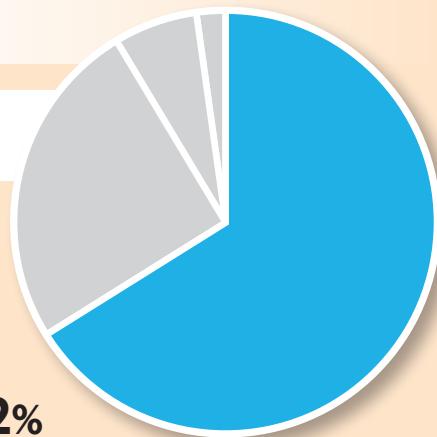
引き続き、株主の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

●セグメント別の概況

衣料ファブリック部門

売上高

12,332百万円 (前年同期比 2.2%増)



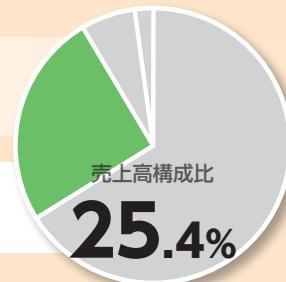
売上高構成比

66.2%

衣料ファブリック部門は、海外において高感性・高機能素材の開発と市場導入を進めてまいりました。なかでも海外向けのファッション分野及び、スポーツ分野については順調に拡大し増収となりました。一方、中東向け民族衣装は概ね計画通りに推移しましたが、在庫過多の影響等により減収となりました。国内向けでは総じて厳しい市場環境にある中、ファッション分野が微増にとどまり、スポーツ分野は苦戦を強いられ減収となるものの、当部門全体は増収となりました。

資材ファブリック部門

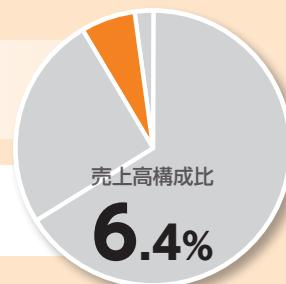
売上高 **4,737**百万円 (前年同期比 10.3%増)



資材ファブリック部門は、リビング分野においては国内需要が低調となり、車輦内装材についても北米向けが減少したことに伴い、減収となりました。一方、医療・福祉のメディカル分野及び生活関連資材分野は順調に拡大し増収となり、当部門全体は増収となりました。

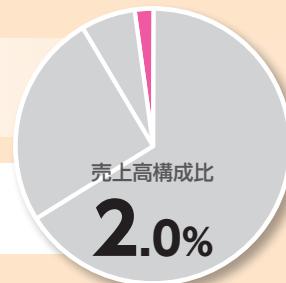
製品部門

売上高 **1,195**百万円 (前年同期比 9.5%減)



物流物販事業

売上高 **373**百万円 (前年同期比 8.4%減)



Topics

Topics

1

日本初、炭素繊維の製品規格化

耐震補強材料『カボコーマ・ストランドロッド』の国内標準（JIS）化が認定へ

当社が国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のセンター・オブ・イノベーション（COI）プログラムの支援を受け、金沢工業大学革新複合材料研究開発センター（ICC）との共同により開発した炭素繊維複合材が、日本ではじめて耐震補強材として国内標準（日本工業規格：JIS）化される見込みとなりました。COIプログラムの成果として製品化した熱可塑性炭素繊維複合材「CABKOMA（カボコーマ）ストランドロッド」は正式に耐震補強材として、1年後の2018年をめどに日本の工業規格の一つに加わる予定です。当社は炭素繊維事業への投資を拡大し、事業拡大を進めてまいります。



東京大学×小松精練の共同プロジェクト

“サステナブル・プロトタイピング・ラボ”によるシンポジウム開催！ 未来に向けた都市環境のアイデア

当社は、かねてより東京大学 工学部 建築学科 隈研吾研究室と共同で、持続可能なこれからの街づくりに、材料メーカーとして何が出来るのかを考えてまいりました。2013年3月、研究拠点として「サステナブル・プロトタイピング・ラボ」を設立。2014年より東京大学と共に展示・報告会を継続開催しています。今回のイベントは第四回のイベントとなり、『未来に向けた都市環境のアイデア』をテーマに、展示や講演を行いました。



Topics

2

“Premiere Vision”に30回連続出展

世界最大級のテキスタイル国際見本市で記念式典を開催

■期間 2017年9月19日（火）～21日（木） ■場所 フランス・パリ

当社は、フランス・パリで開催されるテキスタイルの国際見本市“Premiere Vision（PV：プルミエール・ヴィジョン）2018-19秋冬”に出展いたしました。

当社は、2003年2月より15年間にわたり途切れることなくPVへ出展を続け、今回、節目となる30回目をむかえることとなりました。PV出展30回を記念する式典には、ご来賓としてPVフィリップ・パスケ最高責任者、PVジル・ラスボルド統括マネージャー、LIMONTA S.p.A.（リモンタ）パオロ・リモンタ会長、東レ株式会社 三木取締役をお招きいたしました。

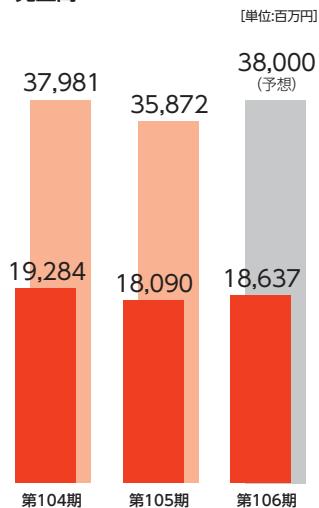
PV出展30回をむかえた今、成果を実感するとともに今後の事業拡大をめざし、当社はこれからもPVをはじめとする海外出展を続け、海外市場開拓にむけた販促活動に積極的に取り組んでまいります。



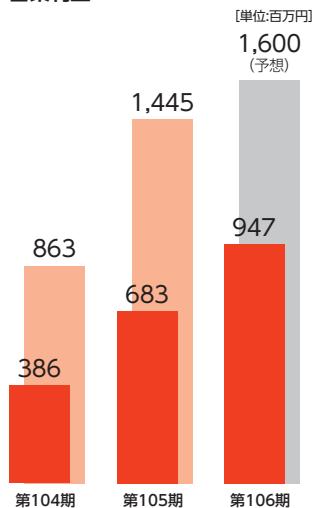
●財務ハイライト

■ 第2四半期累計 ■ 通期

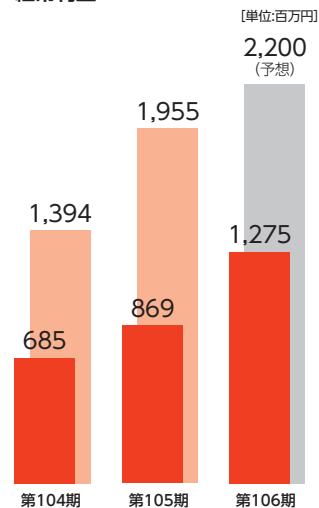
売上高



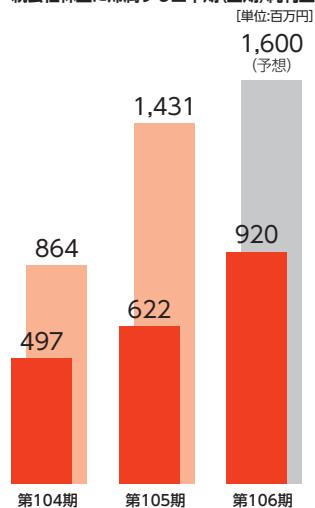
営業利益



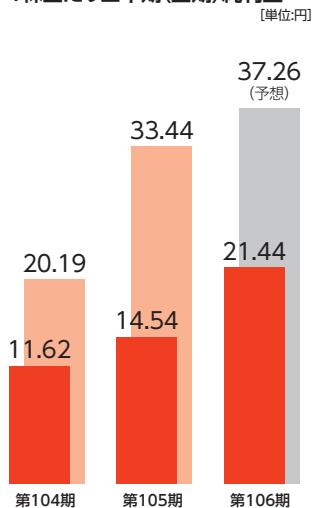
経常利益



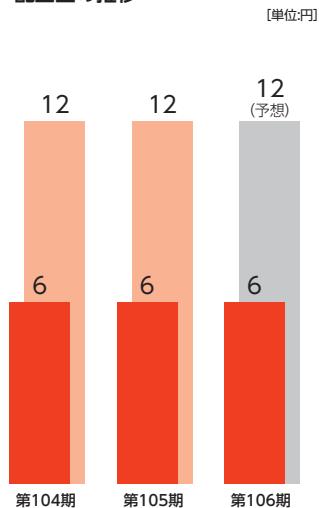
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



1株当たり四半期(当期)純利益



配当金の推移



株式情報

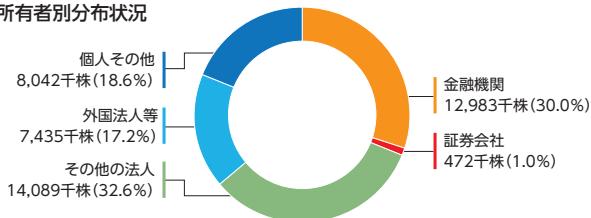
発行済株式総数

43,140,999株

株主数

4,063名

所有者別分布状況



大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東レ株式会社	3,749	8.71
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	3,392	7.88
株式会社北國銀行	2,113	4.91
小松精練松栄会	1,508	3.50
日本生命保険相互会社	1,284	2.98
株式会社北陸銀行	1,263	2.93
三菱商事株式会社	1,250	2.90
三井住友信託銀行株式会社	1,230	2.85
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,224	2.84
株式会社クラレ	1,090	2.53

(注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 0120-782-031

URL <http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html>

1単元の株式の数 100株

公告の方法 電子公告(当社ウェブサイトに掲載)
<http://www.komatsuseiren.co.jp/investor/index.html>
※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、日本経済新聞に掲載して行ないます。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について

株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

会社情報

役員 平成29年9月30日現在

代表取締役会長 中山 賢一	取締役 尾野寺 賢	監査役 高木 泰治
代表取締役社長 池田 哲夫	取締役 奥谷 晃宏	監査役 根上 健正
常務取締役 中山 大輔	取締役 向 潤一郎	監査役 坂下 清司
	取締役 三木憲一郎	
	取締役 阪根 勇	

グループ会社

小松精練（蘇州）有限公司	中国・江蘇省蘇州市
株式会社コマクソン	石川県能美市
株式会社コマツインターリンク	石川県能美市
株式会社パツソ	東京都渋谷区
株式会社セイホウ	栃木県足利市

会社の概況

商号 小松精練株式会社	大阪営業所 大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号 (ハービスENTオフィスタワー8階)
設立年月日 昭和18年10月8日	
資本金 46億8,042万円	東京営業所 東京都中央区銀座3丁目9番7号 (トレランス銀座ビルディング8階)
本社 〒929-0124 石川県能美市浜町又167番地	北陸営業所 石川県能美市浜町又167番地 (小松精練株式会社 本社2階)
本社工場 同上	
美川工場 石川県白山市鹿島町1号7番地1	上海事務所 上海市延安西路2200号 (上海国際貿易センター1913号)



小松精練株式会社

www.komatsuseiren.co.jp/

